

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	3年ぶりのスタジオ訪問、今後のテレビ業界の在り方について
報告者	国際経営学部国際経営学科1年 高木心結
調査日	2023年11月2日(木) 14:40~18:30
調査先	株式会社フジアール
担当教員身分・氏名	教授・木村剛
CVS担当	小野木美桜、小峰奈緒、亀井義和喜
授業科目/学部企画名	訪問調査 (「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1年生11人、2年生3人
調査趣旨・目的	実際にテレビ番組を撮影しているスタジオを見学し、現場にいる方々からメディア業界の現状と今後についての話を伺い、質問や疑問に回答していただく。
調査結果	<p>今回株式会社フジアールの企業訪問に参加した理由は、将来どのような業界に進みたいか全くわからなかったため、少しでも興味がある業界を発見するきっかけにしようという気持ちからである。実際にスタジオを見学し、現場をまとめている方などの話を聞いたことは、非常に興味深く、有意義な経験となり、テレビ業界についてリアリティやおもしろさを知ることができた。現在、テレビ業界は若年層の急激な「テレビ離れ」の進行とインターネット広告市場との競争の課題に直面している。時代と共にインターネットが普及し、多くの人々がテレビではなく、TVer や YouTube などインターネットを介した映像を見るツールとして使用するようになったため、テレビ局の大きな収入源であった広告費はインターネット業界へと流れ、テレビ局の広告収入の減少はもちろんのこと、視聴率も低下傾向にあり、テレビ局はこれまでのようにテレビ広告による収入に頼ることはできなくなった。この課題を解決するために、テレビ業界はインターネット業界にもフォーカスをあて、積極的に動画配信サービスを利用し、コンテンツのインターネット配信など、視聴者のニーズに合わせたコンテンツ制作や提供を行っている。テレビ業界は積極的に動画配信サービスと共存する一方で、テレビコンテンツの価値を上げるために、国内だけでなく世界にも進出し、テレビ番組や映画のフォーマット権を販売したり、海外と番組を共同製作するなどにも力を入れているとのことだった。</p> <p>スタジオ見学の際には、一人一人の役割の大切さと心遣いの重要性を学んだ。1本のバラエティー番組を撮影するにも、2時間前からセットを組み立てる美術の方、視聴者が違和感を抱かないように映像の写りを調節するカメラマン、番組をスタジオで直接観覧している人の声も入れて視聴者が臨場感を味わえるように工夫する音声の方など数</p>

調査テーマ

3年ぶりのスタジオ訪問、今後のテレビ業界の在り方についてえきれないほど自分が知りえなかったテレビ番組制作の裏側があり、そこに多くの方々が関わっていることを知った。

また、新卒社員の方々による就職活動に関する話でも多くのことを学んだ。自己分析の大切さや大学生活での有意義な過ごし方についてのアドバイスを頂き、私は将来自分のやりたいことが分からず焦っていたことを再認識した。自分は何をやりたいのか、じっくり考えることの大切さを改めて理解し、大学2年生は様々なことに挑戦し自分を理解することに時間を使ってみようと思った。

フジメディアテクノロジーの中継車前での集合写真



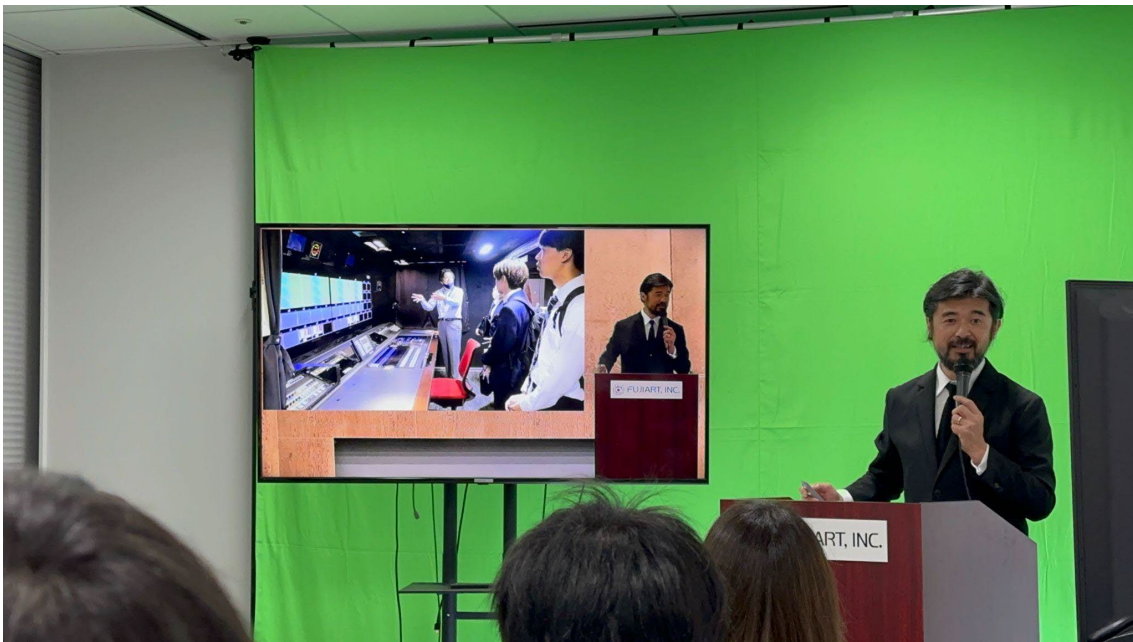
中継車の内部説明（山本様）



学生代表による初めの挨拶



フジ・メディア・ホールディングス各社についての説明



フジアル社員の方々との集合写真

